

第 13 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

1. おきなわ環境交流集会とは

県民、事業者、行政等の様々な人が参加し、環境についての活動紹介や意見交換・講演会などをお互いに交流を図る機会として開催されているもので、今年度で 13 回目を数える。

今年度は、昨年度に引き続いて、県内のこどもエコクラブの活動紹介・交流会を中心に行われた。こどもエコクラブの活動を紹介することで、より多くの子どもたちが環境に関心を持ち、環境活動に参加する動機付けを目的とした。

2. こどもエコクラブとは

子ども（幼児～高校生）が誰でも参加できる、環境活動クラブのこと。2 人以上の仲間（メンバー）と、活動を支える 1 人以上の大人（サポーター）で構成される。環境省が平成 7 年度から「こどもエコクラブ」事業を通じて、地域における子どもたちの自主的な環境学習や実践活動を支援している。

平成 17 年度は、全国で約 4,000 クラブ、11 万人の小・中学生が登録・活動を行った。沖縄県では平成 18 年 12 月時点で、54 クラブ・1,200 人が登録をしており、本島・離島で様々な活動が展開されている。

3. 県内におけるこどもエコクラブ一覧

（平成 18 年 12 月現在）

No.	市町村名	クラブ名	会員	サポーター	活動年数	グループの種類
1	那覇市	綾門A	10	1	3	子ども会
2		綾門B	10	1	3	子ども会
3		綾門C	10	1	3	子ども会
4		綾門D	8	1	3	子ども会
5		アースの会	4	1	3	近所や地域の友達
6		エコレンジャー	7	1	2	子ども会
7		エコレンジャー	9	1	2	子ども会
8		エコレンジャー	3	1	2	子ども会
9		エコレンジャー	14	1	2	子ども会
10		エコレンジャー	12	1	2	子ども会
11		うえまエコキッズ	9	5	2	近所や地域の友達
12		イオンチアーズクラブ こどもエコJなはクラブ	13	2	4	
13		E-COクラブ (イコクラブ)	2	1	4	家族
14		スーパーカブ	10	1	2	ガールスカウト
15		若狭児童クラブ	70	3	1	幼稚園・保育園
16		みんみん自然クラブ	14	6	1	那覇市の子どものための 研修施設のクラブ
17		久茂地児童クラブ	27	12	1	児童館や公民館のクラブ
18		長田学童クラブ	39	3	1	学童クラブ
19		久場川児童館	19	1	1	児童館や公民館のクラブ
20		すみれ学童クラブ	54	1	1	学童クラブ
21	宜野湾市	愛星子どもエコクラブ	5	8	2	
22		ワンチョコ	2	1	1	家族・親戚
23	浦添市	沢岨学童クラブ	48	3	5	学童クラブ
24		港川小学校4-1	35	1	1	学校のクラス(港川小学校)
25		港川小学校4-2	36	1	1	学校のクラス(港川小学校)
26		港川小学校4-3	34	1	1	学校のクラス(港川小学校)
27		港川小学校4-4	34	1	1	学校のクラス(港川小学校)
28	名護市	やんばるエコクラブ	5	1	2	近所や地域の友達
29		ブラックブラザーズ	3	1	2	学校のクラス(大宮小学校)
30		しぜんをまもろうクラブ	4	3	2	学校全校(県立桜野養護学校)
31	沖縄市	エコクラブきずな	70	5	2	児童館や公民館のクラブ
32		愛の泉子ども会	60	5	2	子ども会
33	うるま市	マングローブうるまキッズ	31	5	1	児童館や公民館のクラブ
34	宮古島市	下地地区こどもエコクラブ	10	1	3	下地小学校
35		池間中学校	12	6	3	池間中学校
36		下地地区こどもエコクラブ	10	1	3	"
37		下地地区こどもエコクラブ	10	1	3	"
38	国頭村	安田小学校エコクラブ	8	5	2	安田小学校
39	本部町	OMRCこどもエコクラブ	16	22	1	公募
40	恩納村	OMRCこどもエコクラブ	21	32	8	近所や地域の友達
41		アーケージュークラブ	27	16	4	近所や地域のお友達
42	伊江村	東江上エコクラブ	22	1	2	子ども会
43	嘉手納町	やどかりクラブ	10	4	4	近所や地域の友達
44	北谷町	北谷プロジェクトワイルド	14	2	2	北谷小学校
45	北中城村	北中っ子クラブ	50	3	6	北中城小学校の4年生～6年生
46	西原町	西原町子ども会民謡サークル	43	4	5	子ども会
47		ボーイスカウト西原一回	17	1	4	ボーイスカウト
48		小波津っ子エコクラブ探偵団	11	8	3	子ども会
49		西原ハイッ子子ども会	49	21	2(4)	子ども会
50	与那原町	あかぎ児童館こどもエコクラブ	31	25	5	児童館
51	南大東村	南大東村まるごと館子供スタッフ	42	4	2	
52	八重瀬町	後原こども会エコクラブ	80	3	1	子ども会
53	竹富町	古見こどもエコクラブ 「キハヨー・ファーマー」	7	2	11	近所や地域の友達
54		西表ヤマネクラブ	15	3	10	学校(上原小学校・船浦中学校)
計			1216	156		

第 13 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

4. 開催日時

平成 18 年 11 月 25 日(土)・26 日(日)
2006 おきなわアジェンダ 21 県民環境フェアと同時開催

5. 主催

沖縄県
おきなわアジェンダ 21 県民会議

6. 会場

沖縄こどもの国(沖縄市胡屋)
2006 おきなわアジェンダ 21 県民環境フェア内
25 日(土):「動物センター ZOO スクール」
26 日(日):「水と緑の広場」

7. 参加者

11 月 25 日(土)

所 属	子ども	大人
沖縄こども環境大臣	2 名	2 名
西表ヤマネコクラブ(竹富町)	1 名	2 名
OMRC こどもエコクラブ(恩納村)	4 名	4 名
県立辺土名高等学校	4 名	2 名
その他のこどもエコクラブ ・愛の泉子ども会 ・安田小学校 ・小波津っ子エコクラブ探偵団 ・愛星こどもエコクラブ ・あかぎ児童館こどもエコクラブ ・OMRC こどもエコクラブ(本部町)	79 名	24 名
一般の来場者	2 名	10 名
合 計	92 名	44 名

11 月 26 日(日)
一般来場者およそ 300 人

8. 事業受託

特定非営利活動法人 ホールアース研究所
おきなわアジェンダ 21 県民会議メンバー

9. プログラム概要

11 月 25 日(土)

沖縄こども環境大臣による活動宣言

2006 年 5 月に開催された「太平洋・島こども環境サミット(第 2 回沖縄こども環境大臣サミット)」に欠席した、竹富島・伊是名島の 2 人のこども大臣が登場。それぞれの島で守っていききたいものやそれが抱える問題、自分がどんな活動をしていきたいかを力強く発表した。

活動発表

平成 18 年度沖縄県環境保全功労者表彰を受賞した、竹富町西表島の「西表ヤマネコクラブ」と恩納村の「OMRC こどもエコクラブ」、さらに沖縄県環境教育プログラムモデル校である県立辺土名高等学校の環境活動が、パワーポイント等を使って具体的に紹介された。

以上、沖縄こども環境大臣とこどもエコクラブの発表の際には、環境省那覇自然環境事務所のご協力を賜り、それぞれの発表者に対して 2 人の自然保護官よりコメントを頂いた。

壁新聞セッション

各こどもエコクラブが制作した壁新聞を会場一面に展示し、参加者が歩き回りながら自由に閲覧する時間。参加者は用意されたメッセージカードに壁新聞を見ての感想や改善提案などを書き込み、それぞれの箱に投函した。

第 13 回 おきなわ環境交流集会 事業報告

11月26日(日)

自然体験プログラム「丸太切りジグソー」

昨年に引き続き、杉の丸太を子ども自らのこぎりで輪切りにし、マジックで好きな絵を描いた後に木槌で割って、オリジナルのジグソーパズルを作るという体験プログラムを展開。親子連れがほとんどという、県民環境フェアの一般来場者およそ240人が参加した。

屋外ステージ企画「エコニコ世論調査」

県民環境フェア内の屋外ステージを利用した、参加型企画。日頃どの程度環境に配慮した生活スタイルを送っているか、県民環境フェアの一般来場者が左右に移動して質問に答えるスタイルを採った。1回30分の企画を2回行い、子どもからご年配の方まで、幅広い世代の方延べおよそ60人が参加した。

10. 活動発表の内容

友利弘一(県文化環境部環境政策課長)ご挨拶

こどもエコクラブの皆さん、会場にお集まりの皆様、こんにちは。第13回おきなわ環境交流集会を開催するにあたり、あいさつを申し上げます。

さて、おきなわ環境交流集会は、環境保全活動を行っている環境団体、こどもエコクラブ、学校、行政が沖縄のよりよい環境づくりのため、お互いにどのようなことを行っているか情報を交換し、協力していくために開催しています。

現在、県内のこどもエコクラブは53クラブ、約1,200名の会員の登録があり、各地域で様々な

活動に取り組んでいます。

今日は、平成18年度沖縄県環境保全功労者表彰を受賞した、竹富町西表島の「西表ヤマネコクラブ」と、恩納村の「OMRCこどもエコクラブ」さんもこの集会に参加していますし、1番北のクラブ「安田小学校」が参加しており、県内の南から北まで広い地域から参加しています。

また、会場に参加できない離島のクラブからは壁新聞で参加しており、その他にも伊是名島と竹富島の沖縄こども環境大臣など、多くの方が参加しています。

今日は、自分たちの活動を紹介するとともに、他のクラブや学校の活動も今後の参考にして、これからの活動にも励んでください。

皆さんの活動を続けていくことで、美しい沖縄、ひいては未来まで続く地球を守っていくことに繋がると思います。子どもも大人も、ひとりひとりが環境にやさしい行動をとることが大切です。体験をとおして、自ら考え、調べ、行動することで、日頃の生活の中で環境にやさしい行動を実践していきましょう。

そして、今日の集会を開催するにあたり、辺土名高等学校環境科の城間先生と生徒さんがボランティアで集会の運営を手伝っていただいております。辺土名高等学校の皆様には、心から感謝申し上げます。

最後に、今日の集会が、今後の環境教育の推進につながるとともに、御参加いただきました皆様にとって有意義なものとなることを願って、ご挨拶といたします。

第 13 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

沖縄こども環境大臣による活動宣言

「沖縄こども環境大臣」とは、県内の離島の小中学生を対象に、平成 17 年度から開始された事業。小池百合子環境大臣・沖縄担当大臣が、環境問題に関心が強く様々な活動を実施している小中学生を、それぞれの島に 1 人ずつ「沖縄こども環境大臣」として任命し、1 年間の任期中に各離島の環境問題やその取組の方向性をレポートにして提出してもらうもの。こどもたちが「自分たちの島の環境を守ろう」とする意識の醸成を図り、沖縄の離島における環境保全活動の更なる活性化を図ることを目的としている。

平成 18 年 5 月 26 日～28 日に、こうした沖縄こども環境大臣が一同に会して意見交換を行う「沖縄こども環境大臣サミット」が開催されたが、竹富島と伊是名島のこども環境大臣は残念ながら欠席となった。

そこで、平成 18 年 11 月 25 日（土）の午前中に上述の 2 人とワークショップを行い、島で大切にしていきたい自然 その自然は今どんな問題を抱えているのか その問題に対して自分はどんな取り組みができるのか について、意見交換を行った。午後の環境交流集会では、その成果を参加者に発表した。

竹富島こども環境大臣 宇根 東杜くん

竹富島は観光業がほとんどであり、たくさんの観光客が島を訪れる。そして、町並みと同じくらい、きれいな海や砂浜に感動している。竹富島が誇るこのきれいな海を、いつまでも残していきたい。

そのきれいな海は今、残念ながらごみがとても多い。海岸には漂着したゴミや観光客

などがポイ捨てしたごみがたくさん散らばっている。昨年、看板を設置したりボランティアで海岸清掃も行ったが、まだまだ改善されていないのが現状である。

そこで、観光客に対してはチラシや看板を作って環境のことを考えてもらえるように働きかけていきたい。また、海外から漂着するごみに対しては、インターネットを利用してごみが散乱する様子を発信し、海外の人にも今の現状を知ってもらうことに取り組みたいと思う。

伊是名島こども環境大臣 潮平めぐみさん

伊是名島の山や緑がとても好き。海だけでなく、山や緑の美しい風景をいつまでも大切にしていきたい。

その山や緑は、最近ダムの開発やさとうきび畑のための開墾などによって、どんどん削られたり少なくなったりしている。農家の方がより多い収入を得ようとするのも理解できるが、みんなが山や緑をあまり大切に思わなくなってしまったのではと心配になる。

そこで、看板やポスターを作成し、船の発着ターミナルや公民館など人が集まる場所に設置して山や緑の素晴らしさを訴えていきたい。島の住民だけでなく、観光客にも積極的に PR して、伊是名島の山や緑を守っていきたい。

第 13 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

こどもエコクラブによる活動発表

西表ヤマネコクラブ 堀越 大輝くん

パワーポイントを使って、個々の活動の様子が具体的に紹介された。結成から 10 年を迎える、県内でも有数の伝統と実績を誇る同クラブだけに、参加者は興味津々にじっくりと発表に聞き入っていた。

西表ヤマネコクラブは、西表島西部の上原小学校 10 名船浦中学校 6 名、合計 16 名のクラブです。

僕達は「西表のことをもっと知りたい・調べたい・きれいにしたい」をテーマに活動し、今年で結成 10 年目です。

今までに、大見謝川探険や水の調査、アースクッキー、アースホットケーキやゴーヤやヘチマの栽培、ケナフで紙作りなどをしてきました。また、イリオモテボタルの観察は毎年 12 月に行っていて、8 年間続いています。イリオモテボタルは道路がアスファルトになって少しずつ減っていますが、ホタルは白い色をしている幼虫のような形をしているけど、成虫のメスだということが驚きでした。

今年は 5 月に干潟観察を古見でやりました。干潟の泥の中から出ている半透明で紐のような湯虫が大人気でした。6 月は全国一斉の水調査をしました。見た目では透明できれいに見えたけど、COD の結果はあまりよくなかったので、きれいにしていきたいです。

7 月は近くの海辺でデイキャンプをしました。自分たちで釣った 2 匹の魚をおかずしました。僕は家からお米をざるに入れ、葉っぱで包んで持って来ました。ご飯を炊くときは、砂を掘っ

てかまどを作り、飯ごうで炊きました。火を起こすときは火起こし機にチャレンジしました。煙は出たけど、火は起こせなくて残念でした。味噌汁は貝を採ってきて作りました。その後にビーチクリーン作戦をしました。テトラポットのすき間にゴミがたくさん入り込んでいました。釣りは釣れなかったけど、とっても楽しかったです。

8 月は祖納の海でウミシヨウブの観察をしました。僕たちが行ったときは満ち始めていて、崖におからみたいに打ち寄せられていましたが、ウミシヨウブの様子を実際に見たり、顕微鏡で見たりしました。帰りに通った川はウミシヨウブが一面に浮いてとてもきれいでした。

9 月は鹿川湾にクリーンアップ大作戦に参加しました。船で揺れながら 1 時間近くかかって行きました。人が住んでいない所なのに、漂着ゴミがたくさんあって、浜は汚かったです。ゴミを種類別に集めて数えました。僕は浮きを拾いました。大きいゴミ袋 2 つ分ありました。全体ではかなりの多さでしたが、それを船に積み、全部持って来ました。

10 月は中学校の文化祭でエコロジカルアクション大作戦をしました。缶ジュースなどが売られていたので、缶の分別とプルタブ集めをしました。みんな快く協力してくれたので、嬉しかったです。

僕はエコクラブに入って 2 年ですが、活動をしていて節電に気をつけたり環境について考えるようになりました。西表ヤマネコクラブとしても、みんなに呼びかけて環境のことを考えてほしいです。

第 13 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

OMRC どもエコクラブの皆さん

膨大な量の写真と共に、1 年間を通じた活動内容が、8 人のメンバーによって詳細に報告された。OMRC どもエコクラブの活動の多様性と活動の活発さがよく伝わり、会場からは感嘆の声が挙がっていた。

4 月 オリエンテーション

「友だちを作ろう」

- ・メンバー自己紹介
- ・人間イス
- ・ビーチクリーン
- ・私は誰でしょう？
- ・食物連鎖

5 月 ネイチャーハイク

「山の図鑑を作ろう」

- ・生き物観察準備体操
- ・ゴミ拾い
- ・登山
- ・落ち葉のこすり出し
- ・音を絵に描く
- ・生き物をスケッチ
- ・生き物の分布について
- ・下山

6 月 カメ放流&手作りオールでシーカヤック

「前進あるのみ」

- ・ウミガメ測定&放流
- ・ビーチクリーン
- ・オール作り
- ・カヌーの試乗
- ・カヌーでレース

7 月 プランクトン採取&塩作り

「マイクロ世界探検隊」

- ・ゴミ拾い
- ・プランクトンネットの作成

- ・プランクトン採取&観察

- ・塩作り&観察

- ・魔よけの貝作り

8 月 ウミホタル&夜光虫観察

「ナイトミクロ探検隊」

- ・ゴミ拾い
- ・夜光虫の観察
- ・ウミホタルの捕獲&観察
- ・ウミホタルと夜光虫の違いについて

9 月 リーフウォーク

「手作りミニ水族館」

- ・ゴミ拾い
- ・サンゴと危険生物について
- ・名前で生物連想ゲーム
- ・リーフウォーク
- ・生態系について

10 月 下水処理場見学&ろ過機作り

「水の足跡をたどろう」

- ・下水処理場の見学
- ・ゴミ拾い
- ・サンゴで簡単ろ過装置を作る&実験

まとめ

テーマは「作る」

- ・みんなで、楽しく自然を学ぶ
- ・必ず活動場所のゴミ拾いをする
- ・学んだことを毎月日記につける

第 13 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

県立辺土名高等学校による活動発表

環境科および生徒会の皆さん

国内でも非常に珍しい環境科を有し、地域に根ざして活発な環境活動を展開する県立辺土名高等学校は、こどもエコクラブやこども環境大臣の小中学生にとっては、憧れとも言える存在である。学校内での活動に留まらず、地域の方と一緒に活動も展開しているお兄さん・お姉さんたちの発表に、参加者は食い入るように聞き入っていた。

環境科は、外に出る授業が多く、沖縄島北部の自然をテーマに海・山・川の調査などを行っています。例えば 1 年生では、「ヤンバルの自然と環境概論」として、学校前の海岸、ヤンバルの森、川などの沖縄の自然を、実習を通して学習します。また、2 年生は野外の活動や環境測定、3 年生は環境課題研究や環境測定 などに取り組んでいます。

生徒会が主催する全校生徒が参加する学校行事の一環として、地域のクリーンアップにも取り組んでいます。清掃区や担当クラスの編成を、すべて生徒会で行います。毎年、地域の川や海岸を清掃し、住民にも感謝されています。昨年の 12 月には、地元の新聞でもクリーンアップの様子が紹介されました。

地球環境問題を考える総合学習の取り組みとして、講師をお招きしての講演会も行っています。昨年度は、地球温暖化を考える取り組みとして、写真家の遠藤秀一氏から海面上昇に悩むツバルの事例をお聞きしました。その他、地域の河川調査や県民環境フェアへの参加、ヤンバルクイナ国際シンポジウムへの参加なども行っています。

地域の自然を守る取り組みとしては、山から産卵のために下りてきたオカガニを助ける活動を行っています。また、地域の自然を考える取り組みとして、継続的に川での赤土汚染の測定や水質調査を実施しています。パックテストで鉄分を測定したり、簡単な装置を使って濁り具合を調べたりしています。

今後も地域に目を向け、貴重なやんばるの保全に関わるような取り組みを続けていきたいと思います。

皆さんもぜひ辺土名高校に入学して、環境に対する取り組みと一緒に続けていきましょう。

第 13 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

1 1 . 活動発表のふりかえり

良かった点

- ・昨年度に比べて、参加者が大幅に増えた。(前年度比でおよそ3倍)こどもエコクラブのメンバーやサポーターのみならず、沖縄こども環境大臣や辺土名高等学校、環境省那覇自然環境事務所や沖縄県地球温暖化防止活動推進センター、さらには一般の方と様々な属性の方にご参加いただいたことで、交流や意見交換を目的とする本交流集会の趣旨が十分に生かされる形となった。
- ・昨年度は屋外での実施となり、音響設備やイス等もなかったことから、聞きづらい・長時間同じ態勢で疲れるといった反省点が挙げられた。今年度は、沖縄こどもの国に新設された「動物センターZOO スクール」が会場となったため、室内で全員がイスに座り、マイクやプロジェクターなどの視聴覚設備も整った状態での集会となったため、見やすい・聞きやすい・疲れないと、参加者の環境が大幅に改善された。
- ・沖縄こども環境大臣やこどもエコクラブの発表が終わった後、会場からの質疑応答に加え、辺土名高等学校と環境省那覇自然環境事務所の皆さんから毎回コメントを頂くスタイルを採った。自分たちより少し上の世代、さらには専門家からの意見や提案は、子どもたちにとって大きな刺激や新たな発見につながった。
- ・今年度は、会場内に各こどもエコクラブが制作した壁新聞を掲示し、自由に閲覧し感想メモを投函する「壁新聞セッション」の時間を新設した。力作揃いの壁新聞を前に、今後の活動のヒントを得られだけでなく、自分たちの活動に対して励ましや提案をもらうこと

で、活動に対する自信と新しい情熱が生まれるきっかけとなったようだ。

- ・それぞれの発表の理解の一助とするべく、発表者のキーワードを A4 サイズの紙に書き出し、ホワイトボードに掲示する手法を採った。手元に発表内容に関する資料等がなかったため、発表内容を思い出したり整理したりするのに効果的だった。

改善すべき点

- ・昨年度に引き続いて、発表内容に関する資料を事前に配布することはできなかった。発表者が直前まで準備できないという時間的な問題もあるが、より深い理解やより具体的な提案につなげるためにも、資料の事前配布はぜひ実現させたい。
- ・各回の発表終了後、質疑応答と辺土名高等学校および環境省那覇自然環境事務所からのコメントを頂くというスタイルを採ったため、ひとつの発表に要する時間が予定よりも長くなった。そのため、壁新聞セッションの時間が当初予定していた 20 分の半分の、およそ 10 分程度となってしまった。時間管理を徹底させたい。

第 13 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

1 2 . 自然体験プログラムの詳細

丸太切りジグソーパズル作り

体験の流れ

のこぎりで杉の丸太を輪切りにする。
輪切りの両面にマジックで好きな絵を描く。
木槌を使い、輪切りをいくつかのピースに割っていく。
オリジナルのジグソーパズルの出来上がり。
両面の絵で、2 通りのジグソーパズルを楽しむことができる。

のこぎりを手にする機会の少ない子どもたちにとっては、のこぎりを自分の力で操りながら木を切るだけでも大きな挑戦。子どもの持つ冒険心・好奇心をくすぐることにつながる。

木を見て木に触れ、木屑から出る香りを嗅ぎながら、のこぎりの音や手に伝わる振動を楽しむ。5 感を通して木と親しみ、木への関心を高めてもらうことを目的としている。

また、そこから生み出されるジグソーパズルは木と継続的に触れ合う機会を生み出すことができる。テレビゲームにどっぷりと浸かっている現代の子どもたちに対して、自然と遊ぶことのおもしろさ・大切さを感じてもらいたいという思いから、本プログラムが企画実施された。

およそ 240 人を数えた参加者のほとんどが親子連れ。下は幼稚園に通う児童から上は高校生まで、子どもの年齢層は非常に幅広かった。

のこぎりで木を切った経験のない子どもたちがほとんど。相手の年齢や体力に応じて、スタッフが予め 3~5 割程度まで切り込みを入れ、その後は子どもたちが時に親の助けを借りながらも、自らの力で切り落とすという達成感を味わう。会場には常に子どもたちの歓声が響いた。

1 3 . 自然体験プログラムのふりかえり

良かった点

- 丸太切りジグソーパズルは、対象年齢を問わず子どもから大人まで幅広い世代の方に楽しんでいただける自然体験プログラムである。特に、幼稚園や小学校低学年といった低年齢の子どもたちにとっては、初めて手にするのこぎりを使い、自分の力で丸太を切り落とす感動と、自分で描いた絵がそのままオリジナルのパズルになるという喜びもあって、非常に高い人気を博した。中には、昨年の県民環境フェアでも体験し、楽しかったからまた今年も来たという親子連れもいて、一般の方を対象とする県民環境フェア内で実施することの意義を改めて実感した。

- 親子連れでの参加の場合は、基本的にのこぎりを握るのは子どもであるが、子どもが疲れた時には親が手を添えたり、少し手伝ったりという場面が多く見受けられる。また子どもを励まし、声をかけながらじっくりと見守るという親も多い。木との触れ合いが、親子の触れ合いも実現させている。

- 出来上がったジグソーパズルは古新聞紙を折って作った特製の袋に入れた。ごみの減量に一役買うとともに、参加者に対してもレジ袋削減に向けたメッセージを発信することができた。

改善すべき点

- 県民環境フェアの終了時刻が迫った段階で、どのタイミングで受付を締め切るかが非常に難しい。今回も案内が徹底できなかったために締め切り後も数人が並び、終了が徹底できなかった。看板やプラカードを設置するなどの改善が必要である。

第 13 回 おきなわ環境交流集会 事業報告書

14. 屋外ステージ企画の詳細

エコニコ世論調査

県民環境フェアは、県民 1 人ひとりが自らのライフスタイルを見直し、環境の保全に向けて主体的に取り組む契機とすることを目的としている。従って、同イベントでの屋外ステージ企画であるエコニコ世論調査も、日常生活の何気ない行動スタイルが、環境に優しいのか否かを実感してもらい、新しい気づきをもたらすために企画された。

参加形態は単純で、司会が出す問いかけに該当しているか否かを考え、それぞれロープで作られた「ゾーン」「×ゾーン」に移動するというもの。司会が参加者にインタビューする形式で、環境に対する意識の違いを浮き彫りにした。午後に 2 回実施され、一般来場者およそ 60 人が笑いながら環境に配慮した行動スタイルを学んだ。主な設問内容は以下のとおり。

- ・買い物時には必ずマイバックを持参する
 - ・洗顔や歯磨きの時は水を流しっ放しにしない
 - ・冷蔵庫はきちんと整理整頓されている
 - ・自転車やゆいレール、路線バスによく乗る
 - ・牛乳パックや食品トレーをリサイクルしている
 - ・アイドリングストップを心がけている
 - ・10 分以内の移動であれば自転車か徒歩でいく
 - ・水筒を持ち歩いている
 - ・冷房は 28 以上、暖房は 20 以下に設定する
 - ・食器洗いの際は水を溜めている
 - ・路線バスで来場した
 - ・生ごみは堆肥にしている
 - ・充電電池を利用している
- など

問いかけがある程度進んだところで、「 」の数が多かった参加者にステージに上がってもらい、最後まで残った参加者には沖縄県よりマイバックの進呈が行われた。

15. 屋外ステージ企画のふりかえり

良かった点

- ・誰でも気軽に、何の用意も必要なく参加できる形態であったことから、参加の敷居は低い。また、右に左に歩くだけの単純行動であるため、小さな子どもからお年寄りまで体力に関係なく参加できるスタイルであった。
- ・日頃、無意識に行っている日常生活に焦点を当て、そこから環境に配慮した行動スタイルを浮かび上がらせた。環境にやさしいライフスタイルは特別なことではなく、日常生活にちょっとだけ簡単な変化を加えることで環境への負荷が大きく変わるといふこと、すなわち誰でも実践可能なことだということ、参加者が実感できる内容だった。
- ・環境に配慮した行動スタイルを採っている参加者と、採っていない参加者が混在していたため、インタビュー形式によって参加者が参加者に教える教えられるというコミュニケーションが誕生した。自分と同じ立場の人が実践しているという事実を知るとは、自分にもできる、しなくてはいけないという、新しい気づきや行動を変えるきっかけにつながっていた。

改善すべき点

- ・県民環境フェア全体の来場者に比べると、エコニコ世論調査の参加者は 2 回でおよそ 60 人と少し寂しい結果になった。会場の空間が広いがゆえに、告知や誘導も含め集客に工夫が必要と思われる。

写真資料

1. 当日の様子 (1日目)



沖縄子ども環境大臣たちとのワークショップ



活動宣言を布に力強く書き込みました



辺土名高等学校の皆さんがボランティアとして協力



沖縄子ども環境大臣たちの熱いメッセージ



環境政策課課長 友利弘一のご挨拶



北から南からたくさんの方が参加してくれました



まずは打ち解けあいのゲームで親睦を深めます



異なるクラブのメンバーがすぐ仲良くなりました



竹富島子ども環境大臣の宇根東杜くん



伊是名島子ども環境大臣の潮平めぐみさん



西表ヤマネコクラブの堀越大輝くん



本部町 OMRC 子どもエコクラブ（恩納村）の元気な7人



辺土名高等学校による見事な活動紹介



サポーターの方から活発な質問がありました



環境省那覇自然環境事務所のお2人（川越氏・藤田氏）から専門的なコメントを頂きました



辺土名高等学校のお兄さんお姉さんからもアドバイス



沖縄県地球温暖化防止活動推進センターの方もご参加



発表内容のキーワードを紙に書いて整理しました



他のクラブの仲間からも質問が相次ぎました



壁新聞セッション



アイデアがたっぷり詰まった力作が並びました



直接触れて楽しめる壁新聞も



感想や改善提案・応援メッセージなどを書きました



サポーター同士で意見交換



他のクラブの活動はたくさんのヒントになります

2. 会場に掲示された壁新聞



愛星子どもエコクラブ (宜野湾市)



あかぎ児童館子どもエコクラブ (与那原町)



愛の泉子ども会 (沖縄市)



OMRC こどもエコクラブ (本部町)



安田小学校（国頭村）はヤンバルクイナについて詳細な調査結果を報告



西表ヤマネコクラブ（竹富町）イリオモテボタルの生態調査を9年間続けています。



東江上エコクラブ (伊江村)



エコクラブきずな (沖縄市)



小波津っ子エコクラブ探偵団 (西原町)



池間中学校 (宮古島市)



OMRC 子どもエコクラブ (恩納村)

3. 当日の様子(2日目)



丸太切りジグソーパズルにはたくさんのお子様が



夢中になってお絵描きをしていました



姉妹仲良く息を合わせて丸太を割ります



親子連れを中心に約250名が参加



屋外ステージ企画 エコニコ世論調査



アジェンダ21 県民環境フェアの来場者およそ60名が参加



いつも環境に配慮しているお母さんはあそこにいるよ



インタビューで参加者のエコ意識を聞き出しました



こっこのグループは環境にやさしい皆さんです



最後まで残ったみんなにはマイバッグが進呈されました